

No.9 三郷・二木下長尾地区

— 屋敷林と小路を訪ねて —

三郷公民館を起点に、三郷民俗資料館、中村家住宅、地藏堂、三柱神社などを巡るコースです。田園風景の中に屋敷林や道祖神が点在し、生け垣や板塀が続く小路や水路が歴史的風情を感じさせます。また、既存の古い集落と新興住宅地が混在する、近年の安曇野を象徴する地区でもあります。



二木の火の見櫓と屋敷林 安曇野豆知識 p.30



三柱神社の御神木ハリギリの切り株



未舗装の小路と古い土蔵



◆コースタイム ※時間は歩速 3km / 毎時としての目安です (休憩含まず)。
スタート 三郷公民館→約 1.1km*22分→いなり地藏→約 0.5km*10分→阿弥陀堂→約 0.7km*14分→安曇野市三郷民俗資料館→約 1.1km*22分→二木地藏堂→約 0.9km*18分→三柱神社→約 0.2km*4分→ゴール 三郷公民館
【合計】約 4.5km*1 時間 30 分



下長尾の屋敷林



生け垣と板塀が続く小路



屋敷林の中の小路

①旧温明小学校跡

旧温明小学校は、明治期の温村と明盛村の組合立小学校で、長野の「通明」、諏訪の「清明」と並び、県下の「三明学校」と称されました。林学博士の白沢保美（1868～1947）が、インドからヒマラヤ杉、北米からユリノキの苗を持ち帰り、明治41年（1908）の開校記念に正門横に植樹しました。どちらも国内最古といわれる大木で、根元には白沢保美の記念碑が建てられています。

☞安曇野ゆかりの人物 p.26



②いうなり地蔵

小原木戸のお地蔵さまで、「言う成り」に願いごとをかなえてくれるため「いうなり地蔵」と呼ばれ、願のかなった人たちが奉納した赤い頭巾や腹掛けをまとっています。建立時期は不明ですが、元禄年間（1688～1704）の絵図に「地蔵原」の地名が記され、「地蔵仲間」の約20軒でこの地を開墾したと伝わっています。☞安曇野豆知識 p.29



③中村家住宅 ※国登録有形文化財

約200年前に建築された、東側を正面とする間口8間半、奥行7間半の本棟造の住宅。平成18年（2006）に国の登録有形文化財に登録され、現在はグループホームとして利用されています。



④阿弥陀堂

宝永年間（1704～11）に建てられた地蔵堂兼集会所の跡地で、代々の堂守の墓があります。文久3年（1863）の火災で堂は焼失しましたが、黒くなった石仏は残りました。昭和27年（1952）に地蔵堂は郷蔵跡に移転し、昭和50年（1975）に阿弥陀堂が建てられました。現在は旧地蔵堂の地蔵菩薩が安置されています。☞安曇野豆知識 p.29



⑤下長尾の屋敷林

三郷民俗資料館の東側にある、安曇野を代表する屋敷林です。南東側から見ると、田園風景と屋敷林が常念岳を背景に美しく見えます。代々の旧下長尾村庄屋の家で、主屋は天保9年（1833）の建築、東側の一部建は減築されて現在に至っています。東西に長い長方形の敷地のほぼ中心に主屋、南西側に土蔵、北東側に庭園が配置され、防風のために北西側が常緑針葉樹、南東側が落葉広葉樹の屋敷林となっています。



⑥二木地蔵堂

温堰から分かれる中沢堰と住吉堰の分岐点に建ち、堰の開墾とも関係が深いお堂と考えられます。建立時期は不明ですが、本尊の木造地蔵菩薩半跏像は江戸初期の作とされ、木喰山居の彫像（木喰仏）2体も安置されています。☞安曇野豆知識 p.29



⑦三柱神社

二木・一日市場・七日市場の産土神（後に七日市場は分社）のお宮です。社伝には永享13年（1441）創建とあり、新羅大神・諏訪大神・八幡大神の三神が祀られています。昭和4年（1929）に樹齢700年を超える樹高30mの御神木ハリギリが県天然記念物に指定されましたが、昭和9年（1934）の台風で倒れ、昭和16年（1941）に現在の形で保存されました。平成23年（2011）に公開された映画「神様のカルテ」のロケ地にもなりました。

☞安曇野豆知識 p.28

— 安曇野市三郷民俗資料館 —

昭和26年（1951）に建設された旧温村役場庁舎。昭和29年に明盛村と小倉村と三村が合併して三郷村となった後、公民館、保育所などに利用されました。その後は地域の民俗資料と埋蔵文化財を収蔵する民俗資料館となり、平成15年（2003）に補強改修工事が実施され現在に至っています。

※見学には事前の申し込みが必要。

安曇野市教育委員会文化課

☎ 0263-62-3001

安曇野市三郷民俗資料館の外観



資料館の内部